

座標欄の表示について

このデータベース内に記入した緯度経度は、国土地理院のウェブサイトにて試験公開中(2003年12月現在)の「地形図閲覧システム」からの引用です。従って先に、この数値を得た方法を述べておきます。

どのようにして緯度経度を表示させたかという点、国土地理院のウェブサイトで公開されている1/25000地形図の画面内において、『私の判断』で採集観察地点と特定した場所に、マウスのポインタを移動し、そこをクリックします。こうすると指定した点の緯度経度が即座に表示されますので、この値をそのまま座標欄に記入しました。

この緯度経度は国土地理院側からウェブ上で表示してくるものであり、世界測地系に基づくものとされていますが、その値は国土地理院が開発した変換パラメーターTKY2WGSにより計算上導き出されたものであって、GPS等で用いられているWGS84座標系の値と完全に一致するものではありません。

座標を最も正確に表示する為には、JGD2000測地系に基づいて緯度経度を表示すべきであると考えていますが、現在のところ、この測地系に対応した地図ソフトが一般的ではない為、前述のように国土地理院側からウェブ上で与えられる緯度経度を用いることにしました。

言うまでもないことですが、ここでいう座標とは本来、地球上の『点』を表すべきものであります。ところがその『点』を決定したのが、私の主観であることから、その曖昧さを表現すべきであると考え、ある程度の幅を持たせるように範囲を指定することにしました。

先ず、一点しか座標の表示をしていない場合は、採集観察した『点』の曖昧さにランク付けをしています。どういうことかと言うと、表示した座標を中心に半径で25m、125m、250mの3種に分けて表現することにしました。この25m、125m、250mの根拠ですが、

25m ≡ 地形図上の1mm ≡ 緯度経度の1秒弱

125m ≡ 地形図上の5mm ≡ 緯度経度の4秒

250m ≡ 地形図上の10mm ≡ 緯度経度の8秒

といったものであり、かなり大雑把なランク分けであることを、お含みおきください。

次に、二点の座標を表記しているデータがあります。これは、河川に沿った道路とか河川敷での探索や、林道あるいは登山道から離れることなくこれに沿って探索した場合のように、線的に二点間を移動したときにはこの表現になっています。

あと、採集観察したのが、かなり以前である等の理由から正確な採集観察地点を思い出せない場合と、探索した範囲が面的に広範囲に及ぶ等の理由で座標を記入することにより、かえって混乱を招くのではないかと考えた場合は、座標を記入せず、この旨の記入にとどめています。